

気象モデル WRF の研究

日本電気株式会社 文教・科学インテグレーション統括部 前東 佐智生

目的 洋上風力発電機から発生する風車ウエイクが、ゲリラ豪雨等の自然現象への影響を明らかにするため、シミュレーションによる評価を実施する。

内容 気象モデルWRF (Weather Research and Forecasting)を用いて、秋田県八峰町および能代市沖における風況現象についてシミュレーション解析を実施する。SQUIDの汎用CPUノードにて、WRFの大規模モデルのシミュレーション条件を変更して各種シミュレーションを実施する。

結果 風車ウエイクの影響を受け、ピークの降水量が減少することが明らかになった。

利用した計算機
SQUID 汎用CPUノード群
ノード時間 955 時間
並列化 4ノード 並列

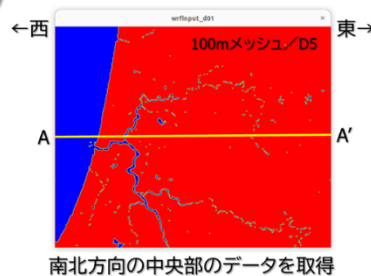
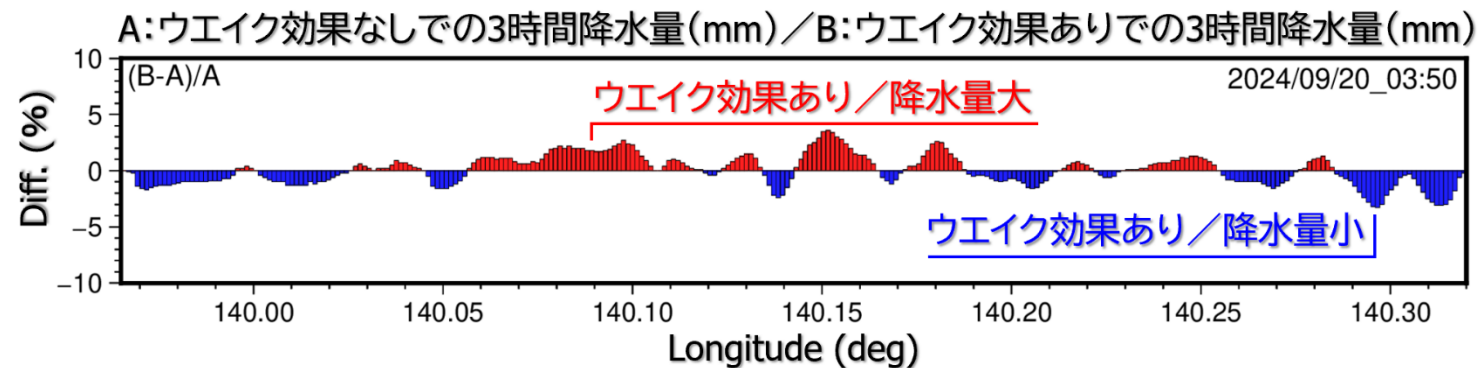


図 (シミュレーション結果)